

## 『乙種1・2・3・5・6類 危険物取扱者試験 令和2年版』 に関するお詫びと訂正のご案内

『乙種1・2・3・5・6類 危険物取扱者試験 令和2年版』の内容について誤りがありましたことを、心よりお詫び申し上げます。以下の通り訂正致しますので、お手持ちの本書に加筆訂正をお願い致します。

ご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。  
よろしくお願い申し上げます。

### 初 版

P111	誤	<b>【2】 解答「2」</b> 2. 棒状の水を大量に放射して、冷却消火するのが最も適切である。なお、硫黄Sは融点が低いため、液状のものは土砂等を用いて流動を防ぐ。 4. 高膨脹泡消火剤は、主に石油系の火災に使用され、窒息効果・冷却効果が得られる。
	正	<b>【2】 解答「4」</b> 2. 硫黄Sは融点が低く、流動しやすい。飛散を防ぐため棒状放水は使用せず、噴霧状にして放水する。 3. 硫黄Sの消火には、炭酸水素塩類を使用する粉末消火剤は適応しない。 4. 硫黄Sの消火には、水、泡、強化液等が適応する。
P151	誤	<b>【1】 解答「2」</b> 1. 保護液を用いて保存するものであっても、カリウムKやナトリウムNaは、湿気を避け、乾燥空気下で貯蔵する。
	正	<b>【1】 解答「2」</b> 1. 保護液を用いて貯蔵するもの以外に、アルキルアルミニウムや水酸化ナトリウムなど、不活性ガスで保存するものもある。
P179 ” 消火方法”	誤	▪ 乾燥砂、二酸化炭素、消石灰、ソーダ灰を用いる。 ▪ 水系（水・強化液・泡）の消火剤は使用してはならない。
	正	▪ 乾燥砂、 <del>二酸化炭素</del> 、消石灰、ソーダ灰を用いる。 ▪ 水系（水・強化液・泡）の消火剤は使用してはならない。
P212 解答 & 解説 【1】	誤	E. メチルエチルケトンパーオキシドは、鉄や銅などの金属と反応するため、器具や容器は、プラスチック製などのものを使用する。
	正	E. <b>内圧が高くなると分解が促進されるため、容器のフタに通気孔のあるものを使用する。</b>